

そらがく

(No. 83)

R8.7.9 発行

現職研修委員会

総合的な学習部編集



本年度の研究の方針

生活総合指導員 葵中学校 金澤 徹

■研究主題■

『子どもの探究がつながる総合的な学習の授業づくり』

■研究の重点■

- ・実社会や実生活の問題を取り上げ、子どもにとって切実感のある、自分事となる課題設定や単元計画をする。
- ・子どもの実態、学校や地域の実情に応じた特色ある単元を構想し、地域の「人・モノ・こと」を積極的に活用した学びを展開する。

- ・「課題設定」「情報収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の四つの探究の過程を繰り返す活動を見通す。

- ・多様な学習集団や学習形態、思考ツール等の「考えるための技法」を活用することで思考を広げたり、深めたりし、自己の生き方に還す。

- ・子ども達が自分のよさや成長を自覚し、単元終了後も自己の生き方を考え続けていけるような評価規準の設定や評価方法を工夫する。

■子どもの探究がつながる単元を構想する■

「探究がつながる」とは、一つの気付きが次の問いを生み、学びが連鎖・深化していく姿を指します。子どもが「これならできそう」と見通しをもち、主体的に次のステップへ向かうために前述した研究の重点の五点が大切です。

子どもの主体性を一層引き出す有効な手立てに地域素材の活用があります。学区によつて魅力の異なる地域素材を扱うことによる価値は次の三つです。①自分の住む地域の課題だからこそ「問いが自分事になりやすいこと」、②地域の人の思いや実物に触れることで『生の情報』を直接得られること、③地域に直接関わり、発信や提案を行うことで「社会への参画意識が育つこと」が考えられます。

探究がつながっていく単元を構想し、子どもが自己の生き方を問い続けることができる実践が、本年度もより多く展開されることを心から期待しています。

充実した探究学習にするために

総合的な学習部長 岡崎小学校 松坂 禎文

本校の一室にある書棚に「岡崎市環境学習プログラム」が置いてありました。懐かしくて手に取ってみると、自分の思っていた緑色が使われた表紙ではなく、よく見ると平成三十年度版とあります。私は岡崎市環境学習プログラムの編集に携わりましたが、改訂後のものだったようです。編集した当時は二酸化炭素や食品ロス削減などが叫ばれ、社会的に環境問題が大きく取り上げられていました。そこで、総合的な学習の時間での追究の一つの例として、提案したものでした。

このプログラムを改めて見返してみると、展開例やワークシート、資料の入手先など実践する先生方の一助となるようにとの編集の方針が見えてきます。私が担当した学年は六年生でしたが、地球温暖化防止の観点から実践例を計画しました。具体的な手だてとして、環境家計簿、フードマイレージ、ポコポコ弁などがありました。フードマイレージは、食料の輸送で排出される二酸化炭素が地球環境に与える負担に着目したものです。そして、ポコポコ弁当は、ポコからネーミングしたものです。ポコ (poco)

研究・研修報告

六ツ美西部小学校 中島 翼

今年度の第一回岡総研には、例年より多くの先生方が参加してくださり、総勢約五十名の賑やかな会となりました。

会の始めには、ご参加いただいた先生方との座談会が行われました。小学校の生活科、中学年総合、高学年総合、中学校総合のグループに分かれ、どのグループも日頃の授業の悩みや今後の単元計画に関する話が活発に交わされていました。印象的だったのは、初めて総合的な学習の授業をする初任の先生が、右も左も分からない中、それでも何とかしたいと相談される姿でした。そういった経験年数が少ない先生とご参加いただいた先生方が、教材の可能性や単元構想と一緒に考える姿に胸が熱くなりました。

また、全体講話の時間には、久野弘幸先生より、次期学習指導要領の改訂に向けた最新の情報をご教授いただきました。次期学習指導要領の改訂の方向性として、『好き』を育み、『得意』を伸ばすことで、質の高い探究の実現を図る」ということが示されました。また、質の高い探究的な学びの実現に向けた新たな枠組みの中に「情報の領域」や「情報・技術科」が含まれるようになり、質の高い探究を情報活用能力の育成を通して支えていくというビジョンをお伝えしていただきました。

久野先生の話を通して、探究・情報の双方の観点から、総合的な学習の時間をより質の高いものにするために、教師の研鑽が必要だと感じました。新たな時代に対応すべく、教師自身も情報収集をしなければなりません。あらためて岡総研で久野先生のお話を聞けることが本当にありがたい機会だと感じました。

学び舎の 総合耳寄り情報

常磐学区の「いきいきガーデン」には、色とりどりの花が咲き、五月には子供たちが作った鯉のぼりが泳ぎます。

手入れをされている、寿会の方から「地域で子供を育てる」という願いをお聞きしました。

六年生が「学区の魅力」を学び発信していきます。

(常磐小学校 榊原 陽菜)



「食と農業の大切さ」について、五年生が学習しています。

農遊会の方々に協力をいただき、自分たちの手で米作りに挑戦しています。

今回は田植えを行い、米作りの流れを学習しました。

農家の方が抱える課題にも触れ、食に対する考えを深める機会になりました。

(梅園小学校 島田 響)



岩津の文化財「岩津城址」について六年生が学習しています。講師として、学区の阿部さんと中根さんをお招きしました。

今回は、武田軍が岩津城を攻める際に通ったとされる「信玄道」を歩き、切通しなどを見学し、当時の戦法について学びました。

(岩津小学校 森田 千紘)



名古屋市の児童と交流し、毎年田んぼ活動を行っています。

しろかきでは、地域の方が昔の道具や機械の使い方を教えてくださり、高学年が実際に動かしました。

稲刈りまで継続的に田んぼの様子を気にかけて、児童の学びを深めていただいています。

(下山小学校 杉浦 由華)



葵中二年生は、六人ほどの班に分かれ、旅行社を通じて名古屋企業訪問を行いました。企業から出された課題に対し、社員のつもりでプレゼンを行いました。働くことの意義や自分の将来を考える機会となりました。

(葵中学校 目黒 真一)

